

教育プログラム・コースの概要

大学名等	近畿大学大学院総合理工学研究科理学専攻
教育プログラム・コース名	がん予防医療の遺伝カウンセリングを学ぶ多職種医療人養成コース
対象職種・分野	・全国の医療機関に在籍するがん診療に携わる医療従事者(医師、歯科医師、保健師、助産師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、診療放射線技師、社会福祉士等)・臨床遺伝専門医・認定遺伝カウンセラー・臨床心理士、さらにそれを目指す学生を対象とする。
修業年限(期間)	6ヶ月
養成すべき人材像	がん患者およびその家族を対象にがん予防の推進を行う人材養成を行う。具体的には以下の項目を重点的に指導、養成する。 がん患者および家族を対象に次の項目ができる人材養成を行う。 1 分子遺伝学を含む遺伝学およびがんゲノム学の専門的知識に基づいた情報提供ができる。 2 臨床背景や家族歴から家族性腫瘍例を拾い上げができる。 3 ゲノム情報から家族性腫瘍の可能性を予測できる。 4 遺伝学的アセスメントを含む遺伝カウンセリングの提供を行うか、適切な診療部門に紹介できる。 5 臨床およびゲノム情報から適切な治療選択が説明できる。 6 患者・家族自身の自己決定のサポートができる。 7 疾患ごとに適切なサーベイランスの提示ができる。 8 適切な遺伝カウンセリングにより、がん発症のハイリスク者のがん予防、がん健診につなぐことができる。
修了要件・履修方法	<修了要件> ・コースの講義・演習に出席し、指定されたテーマの課題およびレポートを提出すること。 ・本インテンシブ・コースで学習した科目のレポート、小テスト試験等にて評価・修了とする。 <履修方法> ・系統講義、ロールプレイ演習により授業を行う。 ・ロールプレイ演習後のレポート作成、課題を抽出し、履修者全員で共有する。
履修科目等	<履修内容> 講義内容 1 臨床遺伝学総論 2 家系情報の聴取と家系図作成 3 バリエントの記載方法とIn Silico解析 4 遺伝性腫瘍症候群Ⅰ(HBOC) 5 遺伝性腫瘍症候群Ⅱ(Lynch症候群) 6 遺伝性腫瘍症候群Ⅲ(その他の遺伝性腫瘍症候群) 7 遺伝性腫瘍での遺伝カウンセリング 8 遺伝子関連検査 9 遺伝性腫瘍のマネージメント 10 小児期から対応が必要な遺伝性腫瘍 11 心理社会的支援の提供(公的支援) 12 心理社会的支援の提供(多職種連携) 13 遺伝学的リスクの評価 14 臨床遺伝におけるコミュニケーションスキル 15 ロールプレイ演習 <方法>月1～2回程度実施、6ヶ月間を通じて行う形式で実施する。

がんに関する専門資格との連携	臨床遺伝専門医研修施設、認定遺伝カウンセラー養成の認定施設（日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会認定）						
教育内容の特色等（新規性・独創性等）	講義として「腫瘍学」を縦糸に「遺伝学」を横糸に、がんの遺伝学総論を述べ、各症候群については遺伝性乳がん・卵巣がん症候群（HBOC）、リンチ症候群（遺伝性大腸がん）、家族性腺腫性ポリポーシス、多発性内分泌腫瘍症1型/2型、リ・フラウメニ症候群（LFS）などを取り上げる。特にアクティブ・ラーニングを重視し、クライアントと医療者の立場を体験するロールプレイを実施することで、遺伝カウンセリングの重要性を理解する。特に本インテンシブコースではがんハイリスク者をフォーカスし、がんの発症前からの患者指導、多数回の健診につながるように、遺伝カウンセリングを行う。これらの教育を通じて、質の高い臨床遺伝専門医、認定遺伝カウンセラーの養成と輩出に努める。						
指導体制	近畿大学遺伝カウンセラー養成課程では、これまで全国の約20%の認定遺伝カウンセラーを輩出した。これまでのがんプロフェッショナル養成プランにて教育された、多様な専門領域を有する認定遺伝カウンセラーのOB、OGが全国から集まって、受講者のそれぞれのニーズに合わせたがんハイリスク者のがん予防につながる教育が可能である。						
修了者の進路キャリアパス	・がん専門医療施設あるいはがん診療連携拠点病院等ではがん診療に従事する中で、遺伝学的な視野から当事者支援を行うことができる。 ・プレジジョン メディシンの一環としてのがん診療において高いレベルでの方針・治療選択に関わることができる。 ・遺伝性腫瘍診療に専門的知識を備えて臨むことができる。 ・遺伝性腫瘍の情報を基に、がん発症のハイリスク者に手厚い健診、遺伝カウンセリングを行うことで、がん予防につなげることを検討する。						
受入開始時期	令和6年5月						
受入目標人数	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
	0	4	4	4	4	4	20
受入（養成）目標人数設定の考え方・根拠	南大阪圏内の臨床遺伝専門医を最低1人ずつ養成すること、認定遺伝カウンセラーも同様に、最低2名ずつ養成することを本インテンシブコースの目標とする。また専門医や遺伝カウンセラー志望者以外からも毎年1人の志願者が見込まれるため、受入れ目標人数を4人と設定した。						